

週刊 武四郎

●毎月第四週は、
松浦武四郎のコレクション
についてご紹介します

監修・松浦武四郎記念館

第 38 号

2018年(平成30年)12月26日(水)
発行・松阪市

コレクションカタログ

コレクターとは何でしょう。私たちは多かれ少なかれ、何かをいついつ集めなくなってしまうもののようなものです。でも、ただ闇雲に物を蒐集しているだけでは、真のコレクターとはいえない。

確固たる審美眼を持ち、確固たる蒐集方針に則って、様々な伝手を頼りに目を皿のようにして漁りまくり、そして蒐集したコレクションをスルメのように研究し味わい尽くし、系統立てて記録し、保存する……なかなか厳しい世界です。さらに武四郎さんなどは徹底していて、蒐集したコレクションのひとつひとつに専用の桐箱を作り、鍵をかけ、その鍵の束には象牙の札までついていたといいます。

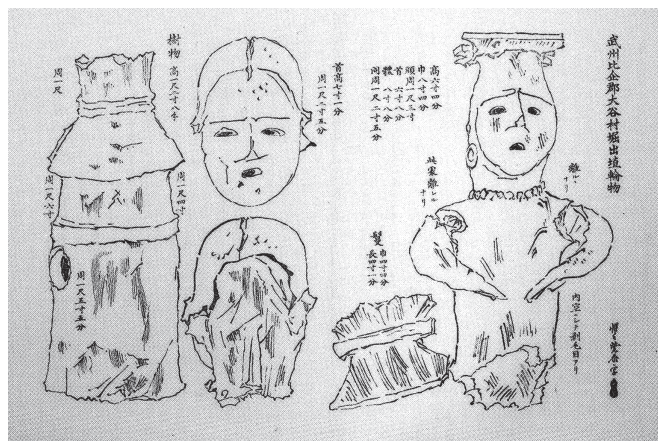
コレクターというのは悲しい存在です。心血を注いで集めたコレクションも、亡くなった後は家族によって売られ、また市場にバラバラに散ってゆくことが多いのです。真の蒐集家はそれを運命として受け入れます。ばらけた玉で、また別の人が美しいネックレスをつなぐように、また別の人がよって新たな別のコレクションが形成されてゆく……美術品はそうした流転の中を生きてゆくものなのでしょう。

ただ、願わくば……バラバラになる前に、自分の集めたものを一冊の本にまとめた、自分の感性によって集められたコレクションの存在を世に残したい。蒐集家はそう考えるようです。

実は、まさに武四郎さんはそこまですべてやっているので

た。一流の絵師に依頼した図版と自ら解説をつけたコレクションカタログの『撥雲余興』。また、『武四郎涅槃図』と呼ばれる『北海道人樹下午睡図』には、お釈迦様と同じように横たわる武四郎さんのまわりを、武四郎さんの集めたコレクションが埋

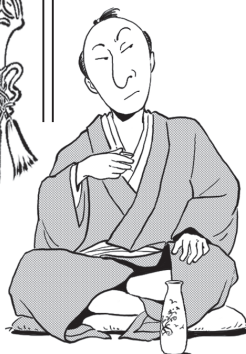
め尽くしています。これもまた頼智の利いた壮大なコレクションカタログといえるでしょう。世の中には、単に物を集めるだけの(集めることがひとつの快感であることは事実ですが!)コレクターと呼ばれる人はごまんといます。でも、ここまで徹底している人はあまりいません。まさに武四郎さんは、真のコレクター道を邁進した人でありました。



▲「撥雲余興」松浦武四郎著(この図は河鍋晩斎の筆による)
明治10年(1877)刊(松浦武四郎記念館蔵)

松浦武四郎 (1818～1888)

三重県松阪市出身。幕末から明治にかけての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地(今の北海道)を6度にわたり探査し、アイヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷地に代わる新たな名称として(北海道)のもととなる(北加伊道)を含む6案を政府に提案したことから(北海道の名付け親)と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

●松浦武四郎を主人公とした小説『がいなもん 松浦武四郎一代』(河治和香著)が、小学館より好評発売中!

